

T&M通信

～税務と経営～

2019年10月号

今月の経営チェックポイント✓

- 社会保険料の標準報酬月額の設定による徴収額の変更月です。
- 10月から京都府の最低賃金は909円です。
- 10月、11月決算法人の方は、賞与等決算の対策の準備をして下さい。
- 10月14日（月）は体育の日、10月22日（火）は即位礼正殿の儀です。
- 10月1日より消費税が10%となります。『軽減税率』や『キャッシュレス決済のポイント還元』など、ご不明な点があれば当事務所へご連絡ください。

※『キャッシュレス決済のポイント還元』の対象店舗となるためには事前の登録が必要です、ご注意ください。

- 当事務所の顧問料は10月分から消費税率10%になります。

納税期限スケジュール

- 労働保険料の延納（分割納付）の第2期分の納付期限は、10月31日（木）までです。
- 個人の道府県民税及び市町村民税の第3期分の納付期限は10月31日（木）までです。



着眼点 「世の中は生成発展？」

税理士 田中 彰

私は、今から十数年前にPHPの主催する「経営コンサルタント養成講座」に通っていたことがあります。ご存知のようにPHPは現在のパナソニックを創業した松下幸之助氏が、平和と幸福を願って作られた教育機関ともいえる存在です。その時、私が印象的であった幸之助氏の教えは、PHP理念の一つでもある「生成発展は自然の理法」というものでした。つまり、「宇宙に存在するすべてのものは、つねに生成し、たえず発展する。万物は日に新たであり、生成発展は自然の理法である」という考え方です。

しかし、大局的には世の中、生成発展していくのですが、今月からの消費税増税は仕方ないにしても、軽減税率との複数税率になったことは後退以外の何物でもないと思います。今や税収のトップになった消費税ですが、所得税や法人税よりも新しい税金で簡素な税金であることをアピールしてスタートしました。今回も「一体資産」とか新しい概念を作り、ますます複雑で混乱の起こりやすい税金になりました。いったい誰が何の目的で複数税率にしたのか私には理解できません。

ところで、幸之助氏の別の教えに、「当を得ればうまくいく」というのがあります。彼が成功の秘訣を問われた時の答えとして「商売は必ず成功するものだ」として、つぎのように続けます。「僕は事業というものは、大小の差があっても、やっただけは成功するものだ」と根本に考えている。…商売も活動

するだけそれだけの成功は得られなくてはならない。もしそうでなかったならば、それは環境でも、時節でも、運でも、なんでもない。その経営の進め方に当を得ないところがあるからだ」と断じなくてはならぬ。それを商売は時世時節で、損もあれば得もあると考えるところに根本の間違ひがある。」少々、耳の痛い言葉ではありますが、どこか私たちにとって勇気を与えてくれる言葉でもあります。

●自筆証書遺言の改正について

平成30年7月6日に成立した「民法及び家事事件手続法の一部を改正する法律」により、自筆証書遺言の改正が平成31年1月13日に施行されました。

従来の自筆証書遺言は、遺言者が遺言の全文、日付を記入し自筆署名、押印をしなければならなかったのですが、この法律の施行後に自筆証書遺言を作成する場合は、全文を自書しなければならなかったところが緩和されて財産目録については自筆で作成しなくても良くなりました。財産目録については、パソコン等で作成、遺言者以外の人に作成してもらう、土地等であれば登記事項証明書や預貯金であれば通帳の写しを添付することも可能です。但し財産目録の各頁に署名押印しなければなりません。

同日に「法務局における遺言書の保管等に関する法律」も成立しました。遺言書保管法の施行日は令和2年7月10日です。

遺言書保管の対象は自筆証書遺言のみで、保管場所は法務局、また遺言書の保管の申請は遺言者本人が法務局へ出頭しなければなりません。保管された遺言については、家庭裁判所の検認が不要となります。

(文責：田中 恵子)

●読書雑感 ～恩田陸『蜜蜂と遠雷』～

肌寒くなったなと思ったらまた暑さが戻ってきたりして、秋の訪れを感じているような、いないようなこの頃。秋の夜長の読書におすすめの一冊を書かせていただきます。

ご紹介するのは恩田陸さんの長編小説『蜜蜂と遠雷』です。芳ヶ江国際ピアノコンクールを舞台に、音楽の神に愛されたコンテスト（コンテスト出場者）による競争と自らの闘いを描いています。直木賞と本屋大賞をW受賞した作品で、今月4日に映画も公開されるため、2016年に発売された著書ですが最近また脚光を浴びています。

読んでいて、とにかく音楽の描写が「圧巻」の一言で、演奏される一曲一曲に鳥肌が立ってしまいます。聴いてもいないはずの演奏が頭の中で鳴り始め、読み終わってもなかなか抜け出せないほどでした。コンテストの心理描写も素晴らしく、読書の好きな方も音楽の好きな方も楽しめる作品です。私自身音楽が好きなこともあり、恩田陸さんの小説で1番好きな作品になりそうです。

映画も楽しみにしているのですが、映像になってしまうと「頭の中で鳴る音」ではなく「耳から聞こえる音」になってしまうので、映画を観る前に読む方がおトクな感じがします。

稚拙な雑感をお届けしてしまいましたが、読書の秋の本選びに迷われたら思い出していただければ幸いです。

(文責：田中 ひとみ)